

平成15年度 情報工学コース卒業研究報告要旨

外山 研究室	氏 名	稲 垣 真 太 郎
卒業研究題目	法制執務支援のための法律文書処理に関する研究	
<p>法令の起草、改廃、公開、配布、運用などを行う作業は法制執務と呼ばれるが、法制執務には専門的な知識と経験が必要である。さらに、我が国で現在施行されている法令の数は国の法律だけでもおよそ1800件あり、毎年新しい法律がおおよそ200件制定されている。しかし、現在、膨大な量の法令に関する法制執務は、専門家が人手で処理している。また、電子政府構築のために法令文書の電子化や法令データベースの作成が行われているが、データベースの更新には人手による作業がまだ多く残っており、その実施が遅いなどの問題がある。法令文書は一定の書式、表現を用いて作成されるので、そのような問題に対しては、計算機による法令文書処理支援システムの構築が有効であると考えられる。</p> <p>ところで、法律の一部改正には「改め文」を用いた逐語的改正方式が用いられている。改め文の代表的な例は『第○条中「△△」を「××」に改める。』という条文である。このような規定と改正前の法律の規定を統合することによって初めて改正法律が作成されるが、この統合作業は専門的な知識と経験を必要とする。さらに、現状では紙で発行された法令集では改正されたページを差し替え、電子化された法令集では人手で修正しているため、改正作業にかかるコストは莫大である。</p> <p>そこで、計算機による法制執務支援を目的とし、本研究では特に法律改正時の統合処理を自動化するシステムを構築する。</p> <p>本研究では、まず平成14年に制定された法律文テキストを収集し、それから改め文を手で抽出した。そうして得られた17784文の中から、文中に表を含まない17705文について分析した。その結果、「改める」「加える」「削る」などの改正動作に注目して改め文を7種類に分類し、その構文パターンを正規表現で記述した。また、文字列を置換する処理を行う改め文が最も多く、全体の61.3%にあたる10857文あることがわかった。</p> <p>次に、本研究では、改め文と改正前の法律文を入力し、それらを統合した結果を出力するシステムを作成した。このシステムは「改め文解析部」と「統合処理部」から構成される。改め文解析部は、前述の正規表現を用いて、改め文の意味を抽出する。それを記述するために本研究では、中間言語を設計した。統合処理部は、この中間言語を解析し、改め文と改正前の法律文を統合させる。</p> <p>実験の結果、前述の10857文に対して、統合処理が自動で正しく行えることを確認した。</p>		